ベルゲン通信
BERGEN SCHOOL
2025年11月号 (No.291)
令和７年１１月１日発行

言葉の在庫

いつの間にか霜月となりました。このところの急な冷え込みからもそれを実感しますが、この言葉の意味をお互いが思い浮かべられるからこそ季節感を共有できます。古典で覚えさせられたからでもかまわないので、言葉の引き出しに入れておいてほしいものです。考えてみれば、話す時も、LINE でやり取りする時も web 上でつぶやく時も相手が少しでもよくわかってくれそうな言葉を使わなければなりません。

先日、中３の理科で「陽極から発生した塩素はどんなにおいがするか」という問いに「ほら漂白剤のハイターのにおいだよ」と言えば理解してもらえました。英語の学習でも「own てどういう意味」と聞かれた時にオウンゴールを例にしたらすぐわかってもらえました。日常で使う外来語であるカタカナ語も共通理解に使えそうです。スポーツ関連ならディフェンスやプロテクト、教科書にも載っているグローバル、最近よく使われるエビデンスやインフルエンサーなど。ところが“ちょい古の日本語”や“今の生活には見かけなくなったこと”はどうも通じません。「中国の都をお手本にして平城京は碁盤の目のようにつくられた」と説明すると“碁盤”という例がわからないのです。ちょっと前の物語に出てくる“縁側”も“せがれ”も“杵と臼”も通じません。だから小説の場面がピンと来なくてつまらないと感じてしまうようです。逆に本を読んだり、今までより年齢的に少し広い範囲の人と会話したりすることによって言葉の在庫は増えていきます。また全国の方言にちょっと興味を持って知っておくと会話の糸口になることもあります。人間は言葉で考える訳ですから、言葉をどれだけたくさん使えているかで考える視野の広さも違ってくるでしょう。

学生の頃に先輩から「受け売りで話してはだめだ」とたしなめられたりしましたが、今は受け売りでもなんでも言葉の在庫を増やしておくことが豊かな思考につながると思うのです。そして１０代の頃にこそ、言葉の引き出しは増設可能だと覚えておいてください。